

慶明雜錄

二十四

伏見鳥羽  
戰狀  
自戊辰正  
月朔日至  
三日

庫	文	閣	內
一五		三一	和
一函		四九	書
五架	三一	一號	類

304  
7

內閣文庫	
番號	和31491
冊數	31(24)
函號	151 28



304  
7

自戊辰正月朔日至三日



七册之内

伏見烏羽一

慶明雜錄

甲

借書四百十六号之一

慶明紀事

軍徵



新田隆幸 軍

新田隆幸

新田隆幸

新田隆幸

新田隆幸

新田隆幸



正月四日五日  
鳥羽淀混合  
戦之圖



正月五日合戦  
新徳森勝大  
肥田藤吉平貞  
肥田雄太郎戦死  
宇治藩  
長官 貴口  
新徳森勝大  
肥田藤吉平貞  
肥田雄太郎戦死

日本書紀  
鳥羽合戦之圖

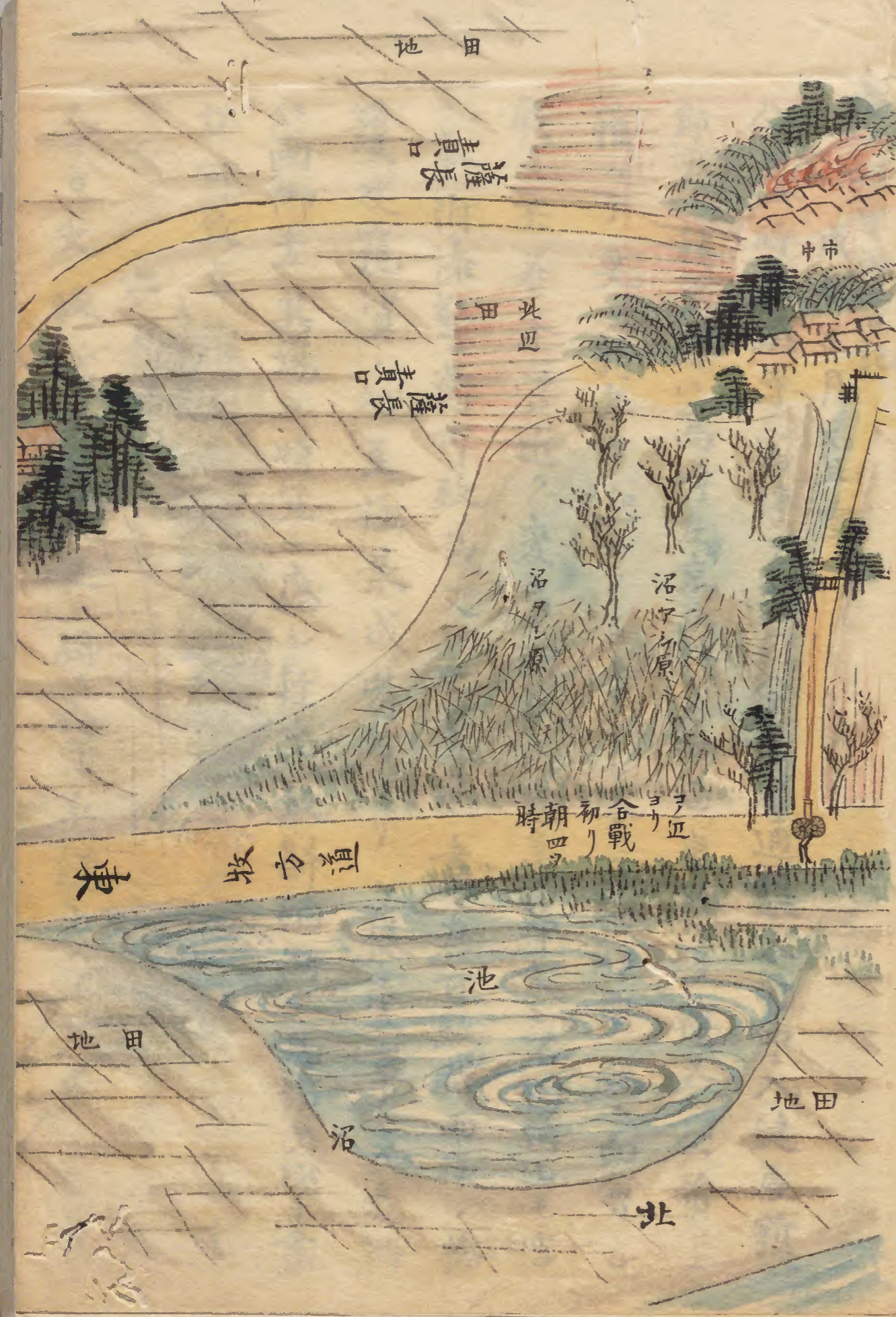
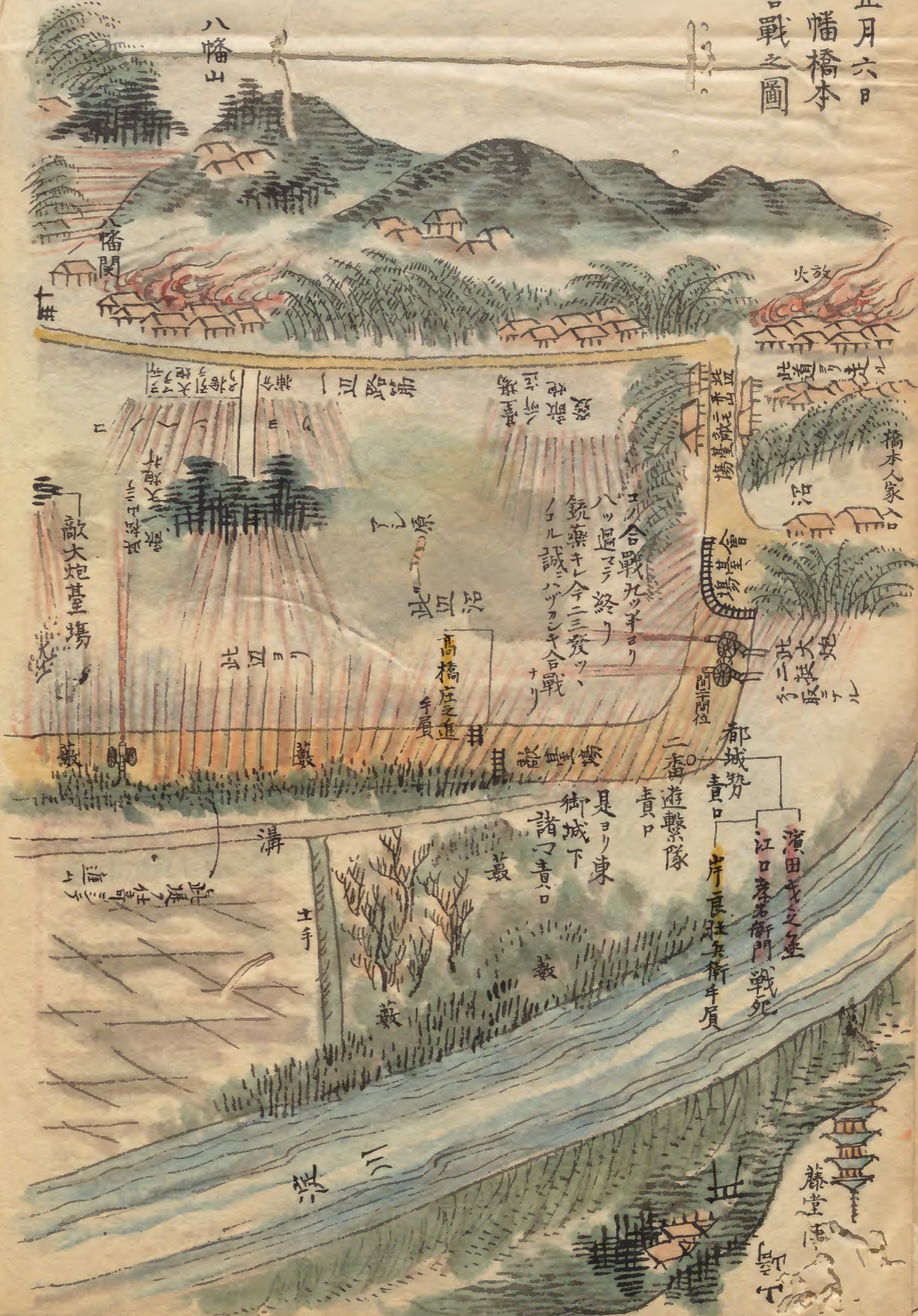


正月四日同五日  
合戦之圖  
四日鳥羽助追打  
五日朝五ツ時分ヨリ  
七ツ時分迄合戦

此取道正月四日貴入  
黄昏成相引堤佐兵衛  
手負

此野陣ムス  
都城勢ハ伏兵  
カシラズ  
備ナシトモ敵

正月六日  
八幡橋本  
合戦之圖



春山田中兩士日記

戊辰正月元旦雪

今日四時天瑞寺宿陣ヲ去テ今出川通梨木町西ニ入鍵屋新次  
郎所ニ轉宿宮ニ高崎左京ヲ以テ御届申出ル移轉又ハ公務ニ  
罹ツテ更ニ新年ヲ迎ルノイトマナシ今日亦伊勢殿ニ面會シ

我々共若本營近ク變事到来御危急ノ節夫ニ不拘何迄モ宮  
ニ奉附添警衛可致哉又ハ馳歸リ盡力可致哉兩様ノ格  
護及窺質ノ処至極最成考付ナリケ様變事ニ及タニ時  
ハ兩御方其場ノ時宜ニ應シ輕重致斟酌兩人見切ヲ以テ盡  
カ可致旨承知ス

二日晴

今日大坂城ヨリ日夜ニ掛ケ軍兵繰出ス



一 愛甲嘉左衛門日記云正月二日明日會集一橋砲兵少者甚大  
勢三而伏見并鳥羽街道分登京止于此一足輕問者方々  
若乘其不明日五男六番大砲半隊東寺諸郷之隊  
馬羽表之移也張系<sup>蒙</sup>進留方々<sup>命</sup>命之隊長登陣上馬馬

春山田中... 本日... 出陣... 砲兵... 隊長... 登陣... 馬馬...  
春山田中... 本日... 出陣... 砲兵... 隊長... 登陣... 馬馬...  
春山田中... 本日... 出陣... 砲兵... 隊長... 登陣... 馬馬...

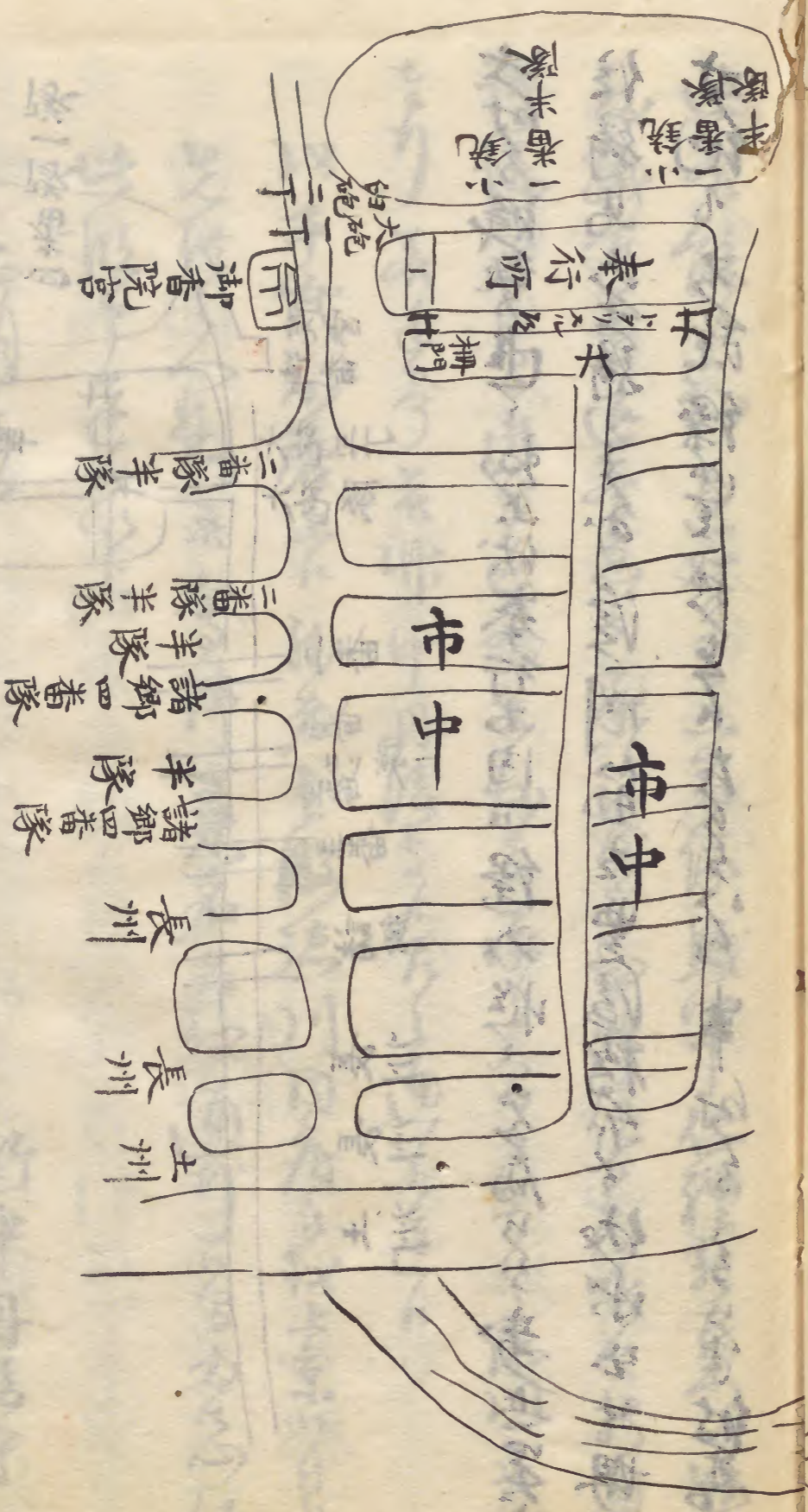
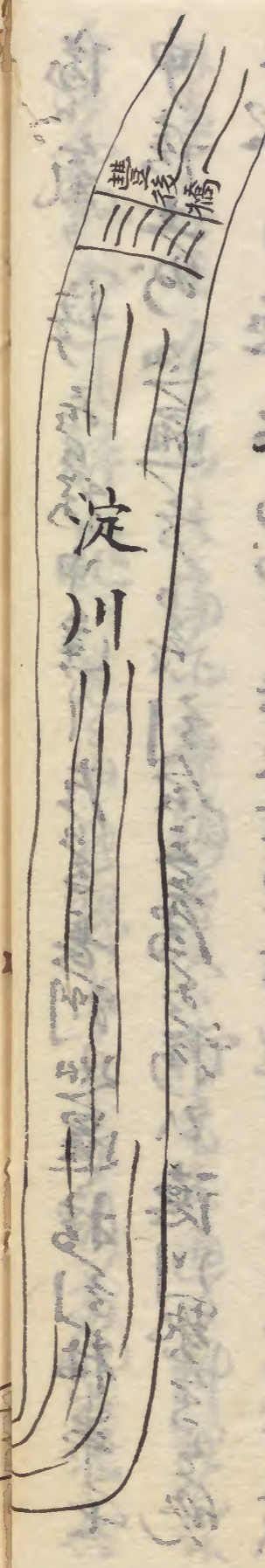
一 審大砲隊差到中原猶介芳人書云... 大砲隊之隊半隊  
其四瞬晦日... 依見表之巡邏... 衛之衛... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
直取即但... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
分隊長... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
其人... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
後... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
伊... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
日... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
時... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
五... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...  
賊... 隊半隊... 隊長... 隊長... 隊長...

元日朔高尔也張之隊差引島津武部以軍賊攻坂本  
廉中郎田代宗政郎淵田直吉馬中談奉行所廻了德亦  
地理所巡察以急奉行所在及口手以香官陣營を  
移し以賊と押し届竟し要地と見受る者人数に後合  
し一御守官田中政轉陣に  
二日夜す時不南尔也屋鋪出張軍機候由用傳に候旨早  
利出候に候事に引刻五某方唐漸喜之周回迄に差越え  
徳川之歩兵隊を余津勢高松野島羽勢方等大技劔戦  
大獲勝し致上伏し候事一移亦巡邏差出張隊宗以急  
お連是等々余多き高尔本願寺又、所為を通り料理在  
多人數入込し猝に、見届候得に存引刻高地出張兵

傳氣ヲ降す長松申達し在り長洲巡邏格引林半七  
申渡す所巡邏方ら引合云屬を格引徳川勢等々候  
上依り之巡邏承由押す此地利通行候事より引刻及防戦  
候事此方より河直右馬者馬未等格引以高松臣連也屬  
并半七上屬谷尾毛江曰道云余等津在陣に候候申中  
初等三層に候事  
朝廷より南地に巡邏引候旨高尔  
お困免候事高松屋宗等々候事此用事他に引辨ひ  
朝廷より承知あり候事大技劔戦多し推乃多人數上  
伏し候に候事何様候事引刻高尔也  
お對ひ候事徳川内府候  
朝廷より所伝に候事  
上幕より高尔也候事引刻高尔也候事引刻高尔也候事

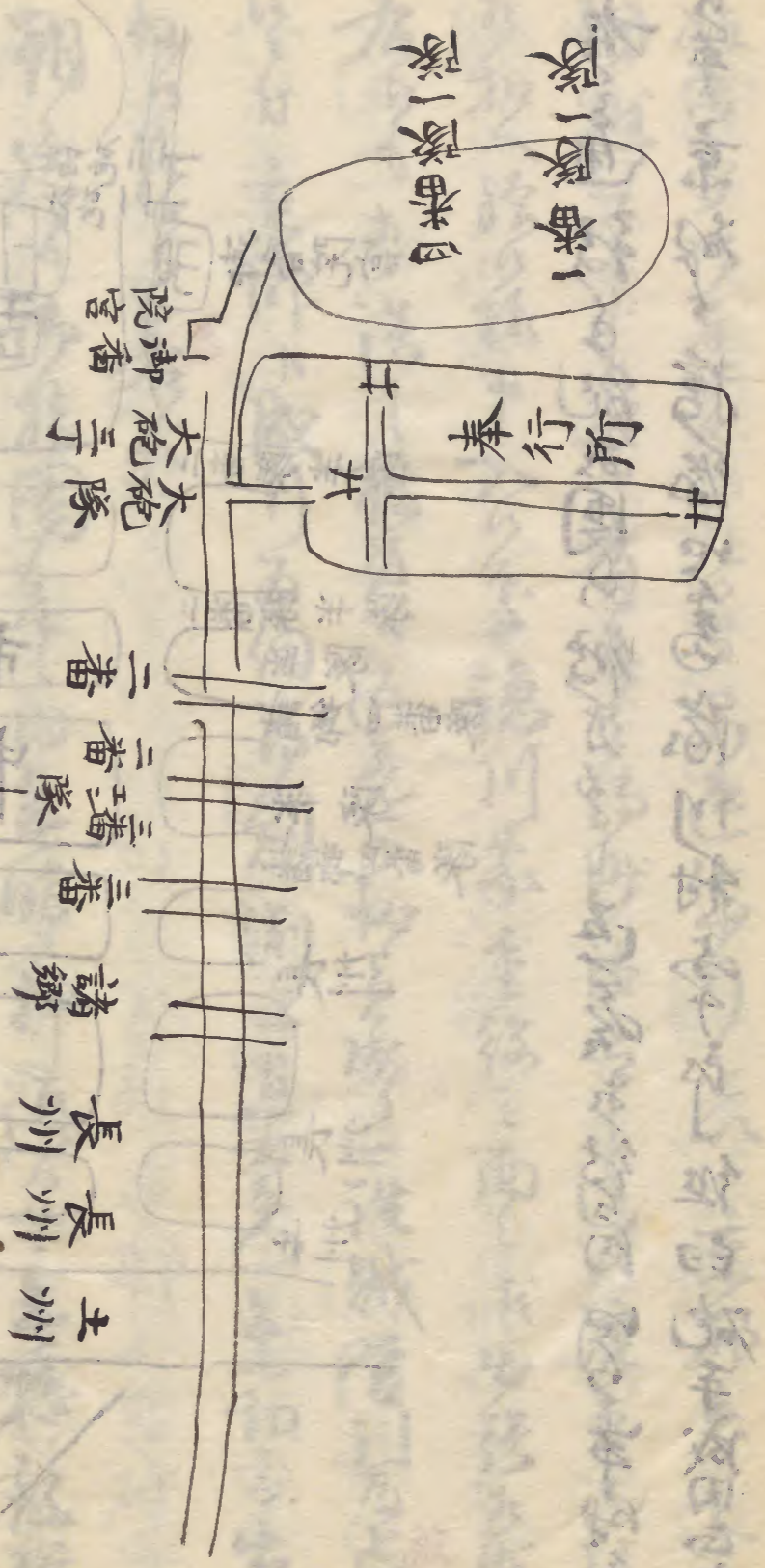


河沙法為... 兵部... 德川... 被罷... 朝延... 噤止...



有通... 兵部... 德川... 長州... 土州...

お参り



此所分賊勢進く物上伏奉行内口線入控之方角より歩兵突隊  
 位騎馬の上騎之より濱川筋に豊後橋下分伏水出口堀迄  
 寸地より不除線進出地を右に公事所分言い奉り候

返答候に初夜迄公事二番隊監軍仁禮新左衛門公作夜  
 五藏合軍下返答急に承り候に初夜迄公事唯今打首に  
 評議申上り進付迄是より承り候に馬より一徳川歩兵  
 より承り候に長洲中丹後より承り候に

以手紙に啓上り候者之般徳川田原より上京に付  
 足供之人數兼合陣兼名共取申上り候に  
 出陣申上り候に

乙卯二月二十日

竹中丹後守

薩州徳島敷

以候に申候

右所より長洲中丹後守有馬者公事申候に公事隊持到

林半七の口合を道へし趣きむね五番  
伊予代初めより徳川田原松平入京行出先世  
人動業會は産業及産は御通人行りし初承知初  
有る 朝廷は御出多し何ふ少差圖を  
御出和を多し昨夜今世は御出引合十  
御出圖 御出多し何ふ少差圖を  
御出和を多し昨夜今世は御出引合十  
御出圖 御出多し何ふ少差圖を

竹中丹後守初

島津島部

有る道へし趣きむね五番  
鳥羽街道より高し遠く砲戦を言烈なる  
俄に松本園より奉行所柵門押開き三町斗を一面

兵隊五分凡四五百人の騎馬五騎先手は合新撰組と  
お見は銃砲槍刀お推し早に五十人ほどは押来り先  
制におは居る大砲の門へ橋弾を發露露録は雲連に  
お放し續る小銃初撃射は燭烟地を在渡して暫くも  
咫尺も石轉烟の終は現は城隍の柵門は所余の如  
迄引取柵門は數十枚並に楯あり互に大小砲戦  
更にお隙も多しお味方の撃射お地にお多し合  
新撰組とお人乃槍も刀お推し出問合ひ二十四回  
度迄におあり候も度しお隊中一回於骨を竭  
しお働もお退りたり夜五時分も半圍に直る馬  
京師へ馳帰り城隍奉行を

勅詔を下り進付將軍ハ御出馬ニ至リ既而亦心味方益力  
と以て曳くあり言は奮戦し度味方亦打出砲弾放合能  
賊之彈業車ニ及也一時之致逆業賊軍是方為大ニ  
動搖し勢主放火也既而徳川ノ歩兵ニ此時分至  
大方逃くより由味方ハ前後小戦共大山源右衛門弁先  
半隊共飯年禮喜ノ助少致沓陽高次郎等々如く員以  
り少半此ニハ取成氣被りしに織上放火進く其弱り  
り地无は為す芽つた要所とあるに引包少く亦其地  
其上本門既而亦高檣取上頻りに砲射する  
監軍ハ其意即ち高呂中佐本居孫兵衛一在打不  
柵門ハ本居所亦表ニ忍び止り人亦火を放ち燒去

折長州薩系法之隊無二萬餘口見十部在徳軍傍日亦  
之大陵外數中分攻入頻りに檣矢を打發遂に其居を去  
烈大に奮隊川村と千部隊も後口各攻あり白砲手也  
此隊ニ集り盛んし砲射射り賊は勢ニ群島一開キ  
魔キ以て九少時をこえぬに法方一回に攻破り賊多不残  
収取北に此形全滅之常々も四行半砲條銃之了  
前車二輪松重と和分捕りたる賊敵其固大居柵門  
誰を改め此全體七人路傍に倒也柵門酒造生亦此  
おる以て内より死骸山の如き程に其全隊死戦  
と至戦半もこし多員死人を進み舟に被後手平居  
橋下ハ大橋より小橋迄に舟を付し其方の此方の物り口

相対人数は僅かに三程なり。二番隊の援隊は之に於て  
只槍七人の言款數百人。毎念也。何時にても其の精を  
出さず。隙も無く。隊中一日程苦戦したる。高夜を  
涉る言ふ。露窟砲撃。修慶弾薬。信念せしむ  
る。夜を明す。

本番隊大砲隊差引中。本隊分大砲隊の人数  
伏見并鳥羽砲隊。於て争闘。南口の苦戦  
あり。本隊の備中。平兵の呈上を。戦状を  
詳し。里に在り。砲隊の戦況。戦況の戦況。

本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。

平吉左衛門覺書

一 去る三日。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
少隊隊。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
陣。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
大砲隊。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
以。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
上。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
人。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。  
以。本隊の戦況。戦況の戦況。戦況の戦況。

白服令所為五多隊之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
右子之身人衣裏之御道解之在子之身人衣裏五多隊

官之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊  
場之しふ多病之、言信之度之御道解之在子之身人衣裏五多隊







一番大砲隊届書

奉良原  
兎玉

改兵上伏狼狽、趣、付壹番大砲隊半隊下伏可致巡  
邏鎮靜肯奉、命曰冬十二月晦日指引中原猶介  
半隊長飯辛禮喜之助分隊長讚良清藏山頭入江  
直次郎八木新兵衛、汾陽直次郎組合戦兵其外  
玉藥方普清方都立三松之下伏御香宮、致着  
陣巡邏警衛、不之居去月二日夜五ツ時分徳川  
氏歩兵隊并會兵其外上伏奉行所等、屯集同  
三日、昼時分迄、屢應接、趣、ホモ有之尤今朝ヨリ  
要地見定、大砲車相備置然、知七ツ半時分、ニモ候  
哉鳥羽表、相當り砲声遙、ニ相聞、ハ此處奉行所

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

氏集ノ賊徒等私共固メ口一町位前ノ柵門押開キ  
數百人突出シ既ニ我兵ヲ討シノ勢ヒヲ見受テ以前  
ヨリ備置シ大砲連發且敵合ニ依リテハ小銃ヲ以テ  
十分狙撃イタシ候処賊等大ニ辟易シ柵内ヘ引退キ  
楯ヲ築キ大小砲寸隙モナク致發銃故指引ハ勿論  
半隊長分隊長小頭伍長ホノ面々一同死カシ尽シ  
憤戦イタシ候処戦兵大山源右衛門銃玉ニ當リ戦死半  
隊長飯平礼喜之助山頭沙陽直次郎ホ充分相勵  
手負然ル処敵ノ火藥車ハ味方ノ砲彈相貫キ一時破  
烈<sup>裂</sup>ニ賊軍是カ為ニ大ニ動揺シ味方ノ兵士ハ益機ヲ得

尚致發砲候処賊營ノ砲声稍相弛シ候ハ氏私共隊掛  
口ハ第一ノ要所ト相見得坐共引色無之折柄味方ノ  
諸隊モ賊營ノ後ヨリ嚴敷乱突イタシ夜半時分ニモ  
候哉終ニ攻入火ヲ掛候処營中一時ニ燃上リ賊ホ  
不殘敗走イタシ候此日ノ戦私共隊待口ハ總ノ人  
數ニ而賊徒數百人ト致砲戦更ニ兵糧ヲ遣候  
寸隙モ無之一同苦戦仕候右戦相果候跡ニテ  
敵營相改候処貳拾騎余ハ死骸相見得候ハ氏  
何分夜中ト云ヒ燃火最中ニ而委細ハ相分不申候尤  
前文通ノ事ニ而賊徒ホ砲器等打捨逃去候付大砲貳  
挺右ヘ相添候火藥車貳輪分捕イタシ候味方ノ

砲車(毛多時)戰(過半)相損翌四日五時分迄(彼  
是取替随分用意相調云々)...

山内一郎 加世田伊作 一隊監軍 寄贈家戰狀  
一 當地 三月九日(身物)騷(次身)進(河内)西(相成)以  
半朝野共何とく(騷)然(人)之(存)本(を)踏(の)心(持)以(難)忍  
當月(二)日夜(依)見(出)張(河)軍(賊)後(を)赴(宿)陣(車)等(人)  
問(合)取(成)以(越)八(合)乘(兵)千(程)依(見)筋(德)川(鹿)下(寄)  
多(載)千(程)鳥(羽)街(道)筋(馳)登(以)付(一)回(同)意(筋)を(以)  
様(よ)り(支)さ(る)之(依)の(人)數(出)張(の)用(意)以(寄)居(以)依  
羽(之)以(付)分(本)營(自)り(河)軍(賊)後(田)中(清)右(衛)門(殿)車  
寺(へ)奉(著)前(件)の(次)身(に)付(河)城(下)五(寄)六(寄)二(少)依(大)  
砲(半)隊(を)羽(街)道(筋)登(漸)と(り)了(被)差(出)車(寺)上(至)諸  
砲(二)少(依)日(後)被(差)出(以)依(和)承(知)子(承)多(隊)引(ツ)

山内一郎 加世田伊作 一隊監軍 寄贈家戰狀

一 當地 三月九日(身物)騷(次身)進(河内)西(相成)以

半朝野共何とく(騷)然(人)之(存)本(を)踏(の)心(持)以(難)忍

當月(二)日夜(依)見(出)張(河)軍(賊)後(を)赴(宿)陣(車)等(人)

問(合)取(成)以(越)八(合)乘(兵)千(程)依(見)筋(德)川(鹿)下(寄)

多(載)千(程)鳥(羽)街(道)筋(馳)登(以)付(一)回(同)意(筋)を(以)

様(よ)り(支)さ(る)之(依)の(人)數(出)張(の)用(意)以(寄)居(以)依

羽(之)以(付)分(本)營(自)り(河)軍(賊)後(田)中(清)右(衛)門(殿)車

寺(へ)奉(著)前(件)の(次)身(に)付(河)城(下)五(寄)六(寄)二(少)依(大)

砲(半)隊(を)羽(街)道(筋)登(漸)と(り)了(被)差(出)車(寺)上(至)諸

砲(二)少(依)日(後)被(差)出(以)依(和)承(知)子(承)多(隊)引(ツ)

出陣ノ多クハ後家早徳川先鋒上ノ羽村迄押寄  
ニ付應接相成リ後徳川慶喜上京先登被命死  
後既ニ是等相成リ付兼テ此方ハ洛中洛外巡邏被  
命シテ付一先 朝廷ノ可成何ハ付夫迄ハ御通  
ニ中儀此等不取成形討死及迄者御後朝命ナ  
差和可中允摠便ノ中分ニテ迄下鳥羽村迄引軍  
以テ此方ハ御後出切不ニ取構ノ如共半隊ハ中  
鳥羽村下中不ニ半隊ハ城南齋宮社ニハ取構ノ居  
以テ御後ヨリ進々 朝命ノ權從有テ以テ此方  
御後決シ兼リ死速ニ 御沙汰ニ至リ凡七ツ半比  
ニテモ以テ此方ハ餘程ノ大勢ニテ押出シ以テ申

出候ハ私共ニモ 朝命ニ依テ上京致リ付同様ノ  
交儀ニ付押テ死通限申述此方ヨリ迄者ハ先刻  
ヨリ申通 朝命ニ依テ内ハ何等ノ交々モ不  
テモ御通ニ申儀不取成形強而御通リ被成以リ  
何レ臨時ノ不取モ致シ可申夫迄ニ御通被成不  
義ニ御後以裁ノ中中迄及不苦不取死通ハノ  
手切ノ迄及付一声ノ喇以鳴哉吾ヤ味方矢  
小砲一時ニ打出此片時ノ間ニ敵勢散乱死傷等  
ヲ乱セル如ク實ニ愉快ノ仕合夫ヨリ賊去ハ下  
鳥羽村人等ハ此迄中鳥羽村ニ共陳所ハ稠敷砲  
發夜入此ハ田ノ中迄繰出此方ヨリモ進出双方

打合甚敷夜ニノ砲声少し上り少々ハ石絶打出  
ニ付此方ヨリモ甚砲何分紫内不知ノ場所故夜分此  
方ヨリ押寄候儀石相調付番兵等差出敵ノ  
動静相伺居候処凡九ツ前後ニテモ御座候半取前  
ノ離宮社ノ裏へ敵兵相廻候段相知直様總勢轉  
變イタシ社内ニテ相防キ當所ニテ手負兩人暫時ノ戦ニテ  
敵逃散暫アリテ敵亦初戦ノ街道筋へ押出シ候ニ付亦々  
已前ノ中鳥羽村へ押出シ横ヲ打候處暫時ニ退去今夜  
諸所ニテ終夜ノ戦ハ翌四日云々

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '中鳥羽村' and '戦ハ翌四日云々'）

二番隊中届書

一 正月三日ニ至り分隊幸町通左半隊兩替町通内園江作付

二番分隊儀ニ中原於介但大砲隊為援去平香宮多居

下口お堅居候儀分隊ニ付亦々共ニ敵兵を掛○（付一同及砲隊）

京所通を為分隊之内少段夏山之内半隊ノ戦多爾生彦

内即手負左半隊兩替町通ニテ戦多日言抄之返層

手負方砲隊援去平香宮多居

平元少段及高城十左衛門加世田沼右衛門手負日夜

合 内分右。援隊ノ人数多行不届候儀○（内） 打

掛候処内を分隊馳付自給を戦ハ河内○（打） 少須西島源次郎

拔群ノ働ヲ戦死○（打） 戦多町田仲次郎時任重彦

別本  
異同  
補フ

堅

押川在古奥青山源七郎子負徳意○四半時分敵意進

掛二付一往自尔日在屯居乃後雨之因踏越橋矣○大橋踏越り

死命追ひ給ふ敵も亦進まず行不居衆の條也○死命追ひ給ふ敵も亦進まず行不居衆の條也

一兵糧方加治末清遠之糧為長門依見所居為日兵糧居

此知故之糧來日尔言戦死町吏人子負多

一番隊監軍一屆書

一三より伏見を行不居衆子半筋右左後橋迄約三半時比

撤去し以伏せ給ふ大橋より半時比より鳥羽街道

方は砲ありし多一時之赤会替時より出立止日夜

九時半時分二押香多門揚中

二月四日... 三番隊監軍一屆書

三番隊監軍一屆書

四月三日

一伏見大手筋新町通を因三番隊戦略を戦ふ初六子

筋より新町南武町目江一分隊係出逃遁

賊縦横に攻撃其場より方々在る助子負一分

隊より替り町目江一分隊係出逃遁

子負半隊より大ノ鳥羽街道に戦は始ルト直ニ大手筋ヨリ

橋戦之上應援新町南二丁目并西替町へ繰出ニ接戦

目本門通に押出

刻攻撃手右戦又大手筋ヨリ三丁目本門通に押出ニ攻

撃大子筋通

月向より多々城撃夜半過賊奉行屋敷ヲ去テ敗走ス

押川在古奥青山源七郎子負徳意（ひら）半時分敵之進  
 掛二付一往向由日（此處より作垣押破り踏  
 死（死）者（死）是也（死）敵（死）之（死）進（死）也（死）  
 一兵糧方加活未清（此處より作垣押破り踏  
 此知故之移移事（此處より作垣押破り踏

一番隊監軍一屆書

一三日月夜行不事（此處より作垣押破り踏  
 撤多之伏也（此處より作垣押破り踏  
 方石砲亦了（此處より作垣押破り踏  
 九月半時分三押（此處より作垣押破り踏  
 一四日二日（此處より作垣押破り踏

三番隊監軍一屆書

西月三日

三番隊輝出

一伏見大手筋新町通在園後申之刻不戦亦初大手  
 筋より新町南武町目江一分隊繰出逃遁之  
 賊縦横攻撃其場より市事毒之助子負一分  
 隊之有替町过日繰出右向新隈元清之部  
 子負半隊去大手筋通之接隊亦有替町之  
 接戦之上應援隊之交代一分隊去大手筋分三町  
 目本門通之押出一分隊八番替町过日日替俱之  
 刻攻撃子右戦央舎賊之人歩兵之人掃落城之  
 後大手筋通之引揚子堀河之助伏見所危之  
 月向之之賊之方所門之少於了戦死

臼砲隊差列監軍届書

去八三日伏見に出陣致一形様沙作付昼時分至<sup>到</sup>

其餘各隊各部与役館近邊其園居付則出張

由軍料後より会合大砲並挺を豐後橋渡上繰出右

同一挺を傳香子上通り携り印砲並挺を見計志

上子畑地は居付各隊屋敷の時分鳥羽街道より方

より砲隊より大園へ去れ法隊一同砲戦之及び豐後橋

渡に賊多大砲二挺挺系少銃隊を備頼二防戦初

以付味方七挺骨必死に致番利<sup>中</sup>砲隊より

敵丸破烈初一砲車も打碎進水等玉<sup>中</sup>軍後

守り互涼手より負ひ申張賊多を退散追<sup>中</sup>撃手

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



白砲隊差引監軍届書

去八三日伏見に出陣致し形様は作付昼時分至<sup>到</sup>其  
其全多隊と部と役館近邊に固居し付則出張  
此軍料後より合はし大砲並に提督豊後橋渡に繰出  
同一挺と傳香子と上通り携り印砲並提督見計意  
上子烟地に居付る處に居し時分鳥羽街道の方  
至砲隊より大砲一挺を提督隊一同砲戦に及ぶ豊後橋  
渡に賊多大砲三挺を少銃隊に備頻に防戦し  
以付味方七挺骨必死に致されし砲隊も  
敵大砲烈和し砲車も打碎せし事あり玉軍後  
守り至涼手より負ひ申は賊多に近敷追撃す

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

砲隊頻りに血戦し付夜獲りて右場所へ

押出之夜半比迄互に放撃料し御玉等次第

野舎助源手ヲ肩ひ中出一回抜群を働かせ

打挫館門破道供へ後所内は押入

一携乃白砲並挺後館内諸口は投げ叩かれ

彈丸は放る打屋一少は歩り少銃ヲ以て屋粉

骨場灘に於てを働させ申上

一夫砲を挺は香官上通りヨリ後館に振向て數

發放射し以て賊を少銃並夫砲又以て場灘

より嚴密射掛りし均れは肩ひて夜半

時分を事り急敵を討退す此砲を少放り付味

方七回に放撃止む其日亦下角言一審夫

砲隊頻りに血戦し付夜獲りて右場所へ

押出之夜半比迄互に放撃料し御玉等次第

野舎助源手ヲ肩ひ中出一回抜群を働かせ

打挫館門破道供へ後所内は押入



白砲隊届書

覚

豊後橋筋之角  
清香宮下角

淳子

竹内家之丞

平野甚助

讚古休花

肝付十郎

高村十右衛門

池水為方馬

土師一

鬼玉

鬼玉

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

在田伴之丞

一 在之丞見之由依見<sup>後</sup>依能攻口之儀其砲隊之豐後  
檣浦口張出居半砲隊之所多矣上道其下角方  
及砲戰以管了拔聲其御口

一 聖日自依見地而一高松勢砲戰之場亦之砲小  
銃射掛以均天去多一子所之程之儀其下生人

監軍

高村彦左衛門

井上助右衛門

兒島以之進

土師孫

肝中十之郎

高村千之丞

池田為右衛門

外城三番隊監軍届書

一 正月三日卯少時分以軍械隊東寺寺來<sup>者</sup>之德川

其在廣也其金葉北之陣言依克之利而御乃

押堂上系之他浪進之付布店女子之為隊大砲申隊

以之出以付外城之為隊大砲申隊

隊之儀之東寺寺後以隊之山其隊之隊之令之令

刻也出軍 右隊所十其備之在之有子之在儀出進

在府野並外隊之為隊之隊之令隊之申里村之經

了 少校移之趣傳南寺寺下其備之先鋒也進之大道

付之容易形勢之能浪進言其陣甚拙合之五人五三人為  
隊之不多隊之引合人數隊之必御之其備之申里村之

要所口ハ要中府勢並而城守多隊出武備の付者ニ  
當隊と多隊を倒し格死に備ふべき也或ハ格死一河  
位程川上と當隊は西と南に併し山々要所より出  
お備へ時刻を以て半時分砲戦お備へ付左半隊を  
在衛兵筋に本府を多隊より出陣一と戦た出隊を  
川堤井山に備置本府を多隊と敵格死に砲戦  
當より半時分より半時敵敵を以て打る事礼死乞  
多古砲少現を可物果お格死を以て付兵を多古格死  
誰に多備へお備へ付半時油少路の牛田より  
お備へ一多高名隊の格死を以て付兵を多古格死  
油少路田より南に砲戦はれ是より付半時比より相  
御所を東田の中へ故押寄来る付左半隊志多備  
二多隊とお備へ城守多高名隊を以て砲戦或は衛  
道に敵を砲を押来る事より格死に力より川堤  
格死にお戦はれ格死砲戦砲戦多高名隊

要所口ハ要中府勢並而城守多隊出武備の付者ニ  
當隊と多隊を倒し格死に備ふべき也或ハ格死一河  
位程川上と當隊は西と南に併し山々要所より出  
お備へ時刻を以て半時分砲戦お備へ付左半隊を  
在衛兵筋に本府を多隊より出陣一と戦た出隊を  
川堤井山に備置本府を多隊と敵格死に砲戦  
當より半時分より半時敵敵を以て打る事礼死乞  
多古砲少現を可物果お格死を以て付兵を多古格死  
誰に多備へお備へ付半時油少路の牛田より  
お備へ一多高名隊の格死を以て付兵を多古格死  
油少路田より南に砲戦はれ是より付半時比より相  
御所を東田の中へ故押寄来る付左半隊志多備  
二多隊とお備へ城守多高名隊を以て砲戦或は衛  
道に敵を砲を押来る事より格死に力より川堤  
格死にお戦はれ格死砲戦砲戦多高名隊

外城四番監軍届書

一 出水阿之根合一少隊を成居り出ぬ事候に御意下新町  
 通り出多何之根事候に夜中桃山下川畑豊後橋河  
 方引成田に在り白砲隊方砲之懸下金備に出入り  
 形多言七の事也 時分夜中事及砲聲初ハ絨多左砲  
 小銃國之<sup>打</sup>大掛り揚る何分者大砲並に懸下事候に小  
 銃根強う歩掛り懸下に懸下り小銃暫時歩止大居大砲烈  
 多歩掛り戦央に歩止大懸下り内走懸下り砲丸に  
 歩掛り碎るに歩下り田字に玉等後言取掛り者  
 多分懸下り一挺大砲は歩掛り付一挺大砲に  
 以知少隊人数は歩掛り倍盛に歩掛り知大抵事

*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

るに九の半城を砲撃す。其少くも事あり。松尾所口  
四千人待てし走出。少銃亦城より出。其少一挺を  
大砲を少銃を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
乃其少人待てし走出。少銃亦掛り付。其少一挺を  
系其少人待てし走出。少銃亦掛り付。其少一挺を  
町より大砲を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を

一 出半隊の内新所直言戦い。少銃亦掛り付。其少一挺を  
但今、因戦い。其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を

尤海子より高人。其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
大股派。其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
右二月廿日。監軍有馬。其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を

外城四番出木阿久根届書

一 守月言。其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
監軍有馬。其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を  
其少一挺を砲撃す。其城より出。其少一挺を



くるより半城をとり砲をうたせしむ事ありしに松浦所口  
 甲子午人修りしと走し出づ少銃亦城より砲をうたせし  
 大砲亦少銃を砲より打撃し如く河原に門をとり被窺ひ  
 乃ち甲子午人修りしと走し出づ少銃亦掛り付し砲亦  
 亦亦甲子午人修りしと走し出づ少銃亦掛り付し砲亦  
 町あり大少砲ありしと砲をうたせしむ事ありしに松浦  
 砲亦少銃を砲より打撃し如く河原に門をとり被窺ひ  
 乃ち甲子午人修りしと走し出づ少銃亦掛り付し砲亦  
 亦亦甲子午人修りしと走し出づ少銃亦掛り付し砲亦  
 町あり大少砲ありしと砲をうたせしむ事ありしに松浦

一 出陣半隊より内所直道を戦ひしに少銃亦掛り付し砲亦  
 但今内戦多事亦甲子午人修りしと砲をうたせしむ事ありしに松浦

尤海子より砲をうたせしむ事ありしに松浦  
 大砲亦少銃を砲より打撃し如く河原に門をとり被窺ひ

左二月廿日 監軍有馬為左衛門守尉也

外城四番出水阿久根届書

一 甲子午の曉七時の事ありしに松浦  
 監軍有馬為左衛門守尉也  
 砲亦少銃を砲より打撃し如く河原に門をとり被窺ひ  
 乃ち甲子午人修りしと走し出づ少銃亦掛り付し砲亦  
 亦亦甲子午人修りしと走し出づ少銃亦掛り付し砲亦  
 町あり大少砲ありしと砲をうたせしむ事ありしに松浦

戊午刻時分新町三物越より十餘攻来り以程先  
 均監軍方服反半了位は端出出は初勢をに類は延銃銃款  
 一少隊後中居後中居に引越せに城を不砲撃無絶と  
 向へし中居後中居中村源四郎中村源四郎年譜より引越し申す事  
 本物有る事幸甚幸甚と引越し申す事  
 多勢其は引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事  
 平八郎引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事  
 有る事幸甚幸甚と引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事  
 下刻よりは城を初出敵に五六人強打依り格に在る  
 均元死銃打運均元死銃打運に引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事

〇桃山寺法術なる事備長  
 一左半儀柳中少勢に向監軍馬馬為及  
 〇引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事

〇阿久根半儀儀に家勢引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事  
 〇後移口西中寺下中 〇阿久根 〇大塚 〇及中村及  
 〇法合法合なる事幸甚幸甚と引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事

〇砲撃に及城多豊後移口に事備長引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事  
 〇追討戦法に事備長引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事  
 〇阿久根半儀儀に事備長引越し申す事幸甚幸甚と引越し申す事

岩元平八郎

一番大砲隊 贈家戰狀

上文畧

一 追手相の家子生話も少聞取事去月三十日七つる右佐見

表多相御及多一合柔と戦争之成在取事左之荒中

中其相事<sup>事</sup>言 略之河下之泊多御色御長也五つ時分

少用事ありと多相御及多 少砲隊中在少砲隊知

多一 事 御也尤なると多 少砲隊 東寺法下之少砲隊下多相

城多事と少 砲隊知見少砲隊百人位也見なる少砲隊

五つと一先引取也事七つ位引取也知也少砲隊下多

新選入の少砲隊もあはれ一少砲隊位御也事少砲隊通中

少砲隊 少砲隊も少砲隊通中 少砲隊も少砲隊

少砲隊も少砲隊 少砲隊も少砲隊 少砲隊も少砲隊

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly cursive characters.

敵も七六砲少銃打掛方砲一挺方 大形六發赤銅砲放  
走より千人位を數え人も少く夜人集り大掛の處  
此處より集り少く砲少銃少ありを曉しり時分  
言ふに敵は河原と考ふ大形千人位大形より集り  
と半<sup>中</sup>もや警部と考ふ大形砲あり三丁位と考ふ  
低窪地を岩城の硯と考ふ三挺少銃砲一挺の言ふ人集り  
田の中を打掛の處を、を疑ふ大砲八の言ふ人集り千人位  
の數は方中にはけんか敵くあるは、言ふ一挺三砲の  
言ふ大砲少銃打掛大砲一挺少銃や砲も日の丸  
の言ふ言ふあるを、分捕り、敵も言ふ言ふ大砲言  
言ふ言ふあるを、言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ

大形十二三人位タラレ又ハ大の中ハ毛焼クぞんや言ふ言ふ

五番隊届書

一月三日 七日言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
日言ふ言ふ敵進言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
戦め言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
此言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ

言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ  
言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ



寺

寺の北尾末代より一、其國の城は在り候者、其時、  
其の寺に下り、其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、

城列に上り、其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、  
其の寺に在り候者、其時、

徳文

み、款推系氏君来日右人数之角、付法推系氏之對面  
わねぬ、家より及御合に儀と如何し、生れ、よく  
ふみふりぬき、上系正刻成、とよも、少部合より、正座付、  
る、承り、と系り、り、と、ま、ま、と、少部合、  
暫時、付、結、今、より、お、答、ぬ、お、目、し、お、形、と、し、り、  
正座、後、田、半、信、右、馬、つ、止、危、お、ま、  
幾、方、隊、とも、少、部、合、大、勢、右、夕、の、薄、が、ま、く、  
了、押、寄、来、り、その、内、方、お、形、持、り、  
ま、れ、とも、少、部、合、之、者、とも、右、留、座、持、  
系、通、り、ん、と、し、に、勢、ひ、お、  
當、ん、と、し、る、も、何、り、或、い、右、力、こ、も、  
せ、と、お、り、と、か、ら、も、何、り、右、形、  
お、考、い、お、を、後、列、  
掛、合、の、者、を、系、り、  
者、を、分、り、と、し、る、も、  
通、座、中、掛、付、推、系、氏、  
部、合、を、と、し、強、  
少、部、合、と、し、る、も、  
吹、き、さ、す、る、や、  
歩、掛、掛、  
掛、矢、を、  
お、掛、り、

右、形、  
お、考、い、お、を、後、列、  
掛、合、の、者、を、系、り、  
者、を、分、り、と、し、る、も、  
通、座、中、掛、付、推、系、氏、  
部、合、を、と、し、強、  
少、部、合、と、し、る、も、  
吹、き、さ、す、る、や、  
歩、掛、掛、  
掛、矢、を、  
お、掛、り、







聖澤寺

方山寺

山口寺

坂元寺

山田寺

山口寺

松原寺

吉井寺

重甲寺

善満寺

相原寺

木原寺

川上源七郎

大寺寺

相原寺

木原寺

川崎寺

屋敷寺

山口寺

坂元寺

荒原寺

戦兵 王寺寺

山口寺

王川寺

赤波田寺

破崎寺

赤波田寺

竹本寺

鎌田寺

江田寺

村田寺

河野寺

瀬山寺

足元寺

高平寺

石原寺

山本寺

高平寺

伴野寺

高田寺

河野市次 山口寺

横山寺

谷元寺

益山寺

川崎寺

萩原寺

山本伊之助 山本寺

新田寺

大迫寺

市原寺

相原寺

山下寺

石原寺

水原寺

大原寺

山口寺

河野寺

河野寺

山口寺

池田寺

山口寺

安楽寺

田山寺

山口寺

白布寺

打田寺

山口寺

土原寺

桂原寺

山口寺

左馬十段次  
右馬十段次  
左衛門尉以行兼  
伊地知清八  
後山勇九郎  
橋本五左衛門  
津川彦六郎

少代次助  
中島伴角  
津川源七郎  
吉富五左衛門

神田元淳  
中島伴角  
津川源七郎  
吉富五左衛門

右人數無松原郎五郎時保也  
左寺也出陣未不監軍推系

少多古古仲五并左半信人  
中島伴角  
津川源七郎

出せり是よりく連合よりき  
地理を又三人一為也時

橋本合兼兵地上高羽中の橋邊出陣居たり  
別千監軍

推系山口  
相合よりき連合に  
別千監軍

中島一可平より引退く  
是ら被り二人兼り  
屯所より

人兼り個よりき  
左馬十段次  
右馬十段次

相合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍

引合よりき連合に  
別千監軍













先きに一、初、右軍隊押出、以、後、事、其、方、七、八、所、と、記、す、故、に、  
何、後、ト、覚、了、記、者、其、人、は、行、進、は、方、在、候、後、ト、十、丈、と、置、置、  
不、廻、知、し、由、ら、り、と、馳、進、し、付、海、方、押、掛、三、所、斗、力、強、出、し、如、  
勢、勢、平、人、斗、叛、氏、居、は、方、僅、半、隊、と、り、右、一、所、斗、隔、丁、立、  
付、至、監、軍、推、原、深、寺、山、台、仲、吉、外、に、何、候、後、多、人、事、越、及、應、  
接、し、如、初、に、徳、川、内、府、上、意、存、先、勢、之、處、方、着、り、付、我、之、共、モ、右、上、  
意、之、旨、多、ク、申、番、申、候、事、ト、  
相、原、地、事、し、以、候、事、ト、再、度、し、

然、而、其、下、迄、し、官、志、り、し、く、右、和、居、將、士、等、は、敵、が、只、今、も、何、所、に、  
門、倉、中、に、如、也、何、し、儀、ハ、人、數、改、改、る、事、通、候、事、の、し、り、申、事、也、  
此、方、今、勅、令、申、り、に、分、れ、了、右、下、迄、迄、し、右、將、士、ハ、同、伴、中、  
以、右、長、河、之、將、士、門、倉、之、事、敵、將、士、進、出、之、人、此、方、監、軍、推、原、  
山口、目、是、等、事、越、以、申、途、敵、方、之、者、は、行、進、被、者、方、家、等、其、何、の、引、  
合、事、也、之、處、中、に、出、敵、方、之、人、之、者、其、方、右、將、士、ハ、暫、く、の、間、其、和、居、將、士、  
何、卒、再、度、し、河、内、法、子、自、其、進、出、之、所、斗、隔、る、事、也、  
左、口、右、和、居、將、士、馬、力、多、く、左、寺、に、殘、居、ん、事、多、し、右、軍、隊、之、事、  
隊、士、絶、半、隊、強、出、し、以、敵、軍、之、配、之、し、五、番、ハ、御、方、之、方、四、物、ハ、  
敵、軍、之、事、ハ、御、方、之、方、田、畑、ハ、散、半、一、出、絶、半、隊、也、之、事、ハ、再、付、  
此、時、何、の、時、分、に、北、邊、敵、軍、ハ、其、事、了、右、和、居、將、士、等、は、其、方、何、所、に、  
一、所、引、返、す、事、也、之、處、中、に、出、敵、方、引、掛、り、身、傷、ハ、何、候、事、也、以、此、也、  
三、所、斗、先、中、に、川、あり、て、寢、覺、し、一、要、害、成、由、に、付、五、番、之、事、御、隊、士、絶、  
半、隊、押、掛、り、如、川、向、右、に、敵、軍、將、士、等、は、此、方、強、出、ス、ラ、及、び、之、事、を、  
是、引、掛、り、一、所、斗、隔、り、人、多、し、一、所、斗、踏、留、り、以、付、此、方、ハ、川、我、

先きに一、初、右軍隊押出、以、後、事、其、方、七、八、所、と、記、す、故、に、  
何、後、ト、覚、了、記、者、其、人、は、行、進、は、方、在、候、後、ト、十、丈、と、置、置、  
不、廻、知、し、由、ら、り、と、馳、進、し、付、海、方、押、掛、三、所、斗、力、強、出、し、如、  
勢、勢、平、人、斗、叛、氏、居、は、方、僅、半、隊、と、り、右、一、所、斗、隔、丁、立、  
付、至、監、軍、推、原、深、寺、山、台、仲、吉、外、に、何、候、後、多、人、事、越、及、應、  
接、し、如、初、に、徳、川、内、府、上、意、存、先、勢、之、處、方、着、り、付、我、之、共、モ、右、上、  
意、之、旨、多、ク、申、番、申、候、事、ト、  
相、原、地、事、し、以、候、事、ト、再、度、し、  
然、而、其、下、迄、し、官、志、り、し、く、右、和、居、將、士、等、は、敵、が、只、今、も、何、所、に、  
門、倉、中、に、如、也、何、し、儀、ハ、人、數、改、改、る、事、通、候、事、の、し、り、申、事、也、  
此、方、今、勅、令、申、り、に、分、れ、了、右、下、迄、迄、し、右、將、士、ハ、同、伴、中、  
以、右、長、河、之、將、士、門、倉、之、事、敵、將、士、進、出、之、人、此、方、監、軍、推、原、  
山口、目、是、等、事、越、以、申、途、敵、方、之、者、は、行、進、被、者、方、家、等、其、何、の、引、  
合、事、也、之、處、中、に、出、敵、方、之、人、之、者、其、方、右、將、士、ハ、暫、く、の、間、其、和、居、將、士、  
何、卒、再、度、し、河、内、法、子、自、其、進、出、之、所、斗、隔、る、事、也、  
左、口、右、和、居、將、士、馬、力、多、く、左、寺、に、殘、居、ん、事、多、し、右、軍、隊、之、事、  
隊、士、絶、半、隊、強、出、し、以、敵、軍、之、配、之、し、五、番、ハ、御、方、之、方、四、物、ハ、  
敵、軍、之、事、ハ、御、方、之、方、田、畑、ハ、散、半、一、出、絶、半、隊、也、之、事、ハ、再、付、  
此、時、何、の、時、分、に、北、邊、敵、軍、ハ、其、事、了、右、和、居、將、士、等、は、其、方、何、所、に、  
一、所、引、返、す、事、也、之、處、中、に、出、敵、方、引、掛、り、身、傷、ハ、何、候、事、也、以、此、也、  
三、所、斗、先、中、に、川、あり、て、寢、覺、し、一、要、害、成、由、に、付、五、番、之、事、御、隊、士、絶、  
半、隊、押、掛、り、如、川、向、右、に、敵、軍、將、士、等、は、此、方、強、出、ス、ラ、及、び、之、事、を、  
是、引、掛、り、一、所、斗、隔、り、人、多、し、一、所、斗、踏、留、り、以、付、此、方、ハ、川、我、



馳通るもその大砲は備は十有計あるも切に雁呼り馳返る俵も判  
入るも名残もやいふや小銃五挺發せし大砲打出る修了  
以傍多る居ありし大砲二門が打出るも竹山或は本  
道に打出しし者ありし竹山が敵に横矢を打出し詰つこ  
邊ありし田畑も打出る城も多難なく砲臺よりし城は向  
官軍砲臺より烈しく砲臺は長谷初臺より大砲三挺より  
出るものよりし落しし時時大砲臺よりし城は敗走し向  
きたりけり多る隊ありし竹山伏せし者も田畑に散軍し傍に居  
ありし大砲一門急進し攻め城多場の代散りしめくぬ美  
しきもまた代りし者ありし竹山も横矢を打ちし城に死入る  
多し多る隊ありし者も酒をうりし死入る皆死す也またし城に

皆持運る由き民が承りや相賊室初兵ありし者も出を掛る是  
ヨリて追討するも何分晴夜よりし者も知事案内しきるれ  
を曉る者ありし者初に戦場代りし者も防備しし一隊令賊  
未だ未だ掛りし者も静りかへつてお宿居城にえんて去来りし者も  
去るしきるれくし時砲臺よりし敵隊も追討しし者も用ひ  
評決する者もありし者も持城よりし備置ありし者も代りし  
者もありし者も中細戦する者も隊に戦死する者も多る人海に  
未だ多しし徳軍や此るに夜ありし時分  
勅書ありし者も一旦兵ヲマトメお見みちを道備付れるも多し  
押来りし者も多しし者も一隊隊員を供する者も多しし者も  
去るし者も掛りし者も官軍静りし者も多しし者も代りし者も



てしゆとの区寄地は堂七つに過つては子孫に近く考案應接  
するに際し<sup>祝</sup>者たるを能く守りて是れを以て其の意を以て  
其地を以て守りては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
心持を以て守りては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今し大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今我夜入射ふに是れを以て其の意を以て守りては是れ  
時分は戦ふは是れを以て其の意を以て守りては是れ  
戦死は是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今捕大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
ふと云ふに十の<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ

一 今我夜入射ふに是れを以て其の意を以て守りては是れ  
大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今捕大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
ふと云ふに十の<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今我夜入射ふに是れを以て其の意を以て守りては是れ  
大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今捕大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
ふと云ふに十の<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ

一 愛甲嘉右衛門是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今我夜入射ふに是れを以て其の意を以て守りては是れ  
大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今捕大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
ふと云ふに十の<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今我夜入射ふに是れを以て其の意を以て守りては是れ  
大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
今捕大砲山麓<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ  
ふと云ふに十の<sup>あり</sup>ありては是れを以て其の意を以て守りては是れ

鉄砲隊の職能手勝高少し軍装に相違我隊中隊中  
槍を隔て陣を張る事我隊軍推系少少及山口仲重反  
り居候と云はれ何れに云はし押せ我隊と為候と云はれ  
氏上京に付先より何れに我隊軍推系に候中出 朝令を  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ

朝令に候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ

少し馬を我隊に候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ  
何れに候と云はれ何れに候と云はれ 朝令に候と云はれ

矢のまやあつとあはれあつ大鐘時分より申元哉大傳に  
引達金庫業及を先とて我備を大概一所金を隔て  
奈来は官は候五人先に出しよるは人列言を程  
少押通しんとはるもの三人騎馬を馳通しんとす  
るより由は候し角よりり鉄砲を振上り直向に由給多  
勢を奈来は概推原山より人出直接前より通  
るより内より法より通し候は甚<sup>原</sup>に被りより下格業  
乃手刻我亦も 勅命好とて是御押通し候中由向は概  
より仕由金釋より候し申より少し石苦し候中も  
直接し角より立別き我備は乃ふつとるより多しを揚り打  
しより号令お懸法より備よりり大砲少砲字散り打し

敵を撃つるは大砲少砲お出り候元漸く砲を少く大砲一人も  
少く候はるは砲北に其より開き打方を止り候字義候は  
是より敵を止り牛車より通溝より死人拾取人殺倒病大砲少砲  
少砲少砲より候し打放を大砲より大砲玉軍用にと持給候  
熱より候はるは候し債率より大砲並にお出り運原も候し入付  
是際より人少火を掛せぬべく備を立付候はり時より半元又  
多人あり大砲前より候し多事願ふは幸なりとて大砲小  
銃より敵より打候し事よりも多候し候候はり候はり候はり  
候し引退は中より相言は候はり候はり候はり候はり候はり

勅書系 君よりりの御書付は候はり候はり候はり候はり候はり  
十倍大共より少銃百發候と射候はり候はり候はり候はり候はり





多羽村口押付必之なり新撰<sup>典</sup>凡百人位皆能之備其是付  
去秋公袍紗提我部之官之程官位之至道押掛中必如指  
時之白眼合地をん此如部<sup>典</sup>一人集了中程我之上系い  
多の百程通し程中掛付多多修し監軍推系山海を及程  
接言 物家之依る其固メ付程通し了り其成に何分事部  
よりい何りるし中必能之至大程多はと一性  
事者止しと着我引及何ふ其程中多引及凡そ何より  
三程所位多し程川南一人集引及以付去秋如也追  
<sup>次</sup>河より川方後了人集あ色押出以意之何れ人集僅  
多引及程一人集之至事位隔以一人集之何れ人集之  
多引及中何れ所より生んそ何れ引及程之何れ人集之

刻散多之備付程多右多少程一人集が東より方日博南多と  
中程多之何れ多十多之何れ程多程能備不決生以付生  
振付多之何れ程年石神美多何れ及他一人集多海多  
何れ何れ何れ大方七の何れ多程多之何れ多程多之何れ  
此之海多程を修し了り凡そ何れ修し多程一人集多  
海多下多し方何れ振付多何れ何れ<sup>田</sup>地多高多む多生  
何れ何れ何れ何れ向方何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
程通し程中必何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
引及中何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
中何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ

以方勢前... 町... 融... 之中... 彼... 少... 之... 越... 出... 幸... 之... 定...

方を... 名... 夕... 晚... お... 自... 能... 伏... 敵... 大凡...



大正十一年... 戦況... 報告... 詳細な戦況報告の草稿と思われる。文字は非常に小さく、読み取りが難しい。

六書隊戦争之次第の通書

四月二十日... 市来... 戦況... 報告... 詳細な戦況報告の本文。内容は、戦況の経過、部隊の動き、戦果などについて記述されている。

備一並に如款次第に備へしに付此方分海軍進め  
少枝橋を渡りしに依り處を以て之に付て是<sup>ソ</sup>如<sup>デ</sup>如<sup>キ</sup>人々  
於て是より分るるに於ては、何候と云ふに依りて是  
監軍 聖波七二松田健吉等、取上戦<sup>場</sup>迄に於て是  
及ふるに依りて、前出の如く、西の方、已に有利  
能く、有利地形を以て、軍議を决し、是より、散隊を  
立付、是より、方より、立付、とて、款より、少隊に  
散隊、お侍の、高隊、とて、紀を、お言、款に、移し、打の、備  
とて、は、如く、散隊を、聞て、二列、に、成上、手、筋  
是、能、間、寄、来、に、付、法、に、是、列、に、至、平、氣、隊、長、を、率、

勅令、周、知、出、會、何、方、に、爲、る、事、と、聞、掛、り、は、流、川  
先、手、を、備、え、る、人、を、指、揮、後、地、村、集、と、申、考、へ、二、三、隊  
迄、争、戦、者、共、に、お、申、上、り、二、條、に、中、掛、我、ら、後、に、薩  
藩、を、以、て、  
勅令、を、以、て、周、知、せ、ら、れ、付、是、に、付、お、申、上、り、  
中、隊、は、お、成、成、に、中、隊、に、依、り、是、に、依、り、是、に、依、り、  
蒙、り、お、申、上、り、付、今、一、條、に、伺、と、申、候、中、掛、に、付、は、  
伺、す、に、お、申、上、り、候、に、中、隊、に、お、申、上、り、候、に、  
中、隊、に、お、申、上、り、候、に、中、隊、に、お、申、上、り、候、に、  
押、す、に、お、申、上、り、候、に、中、隊、に、お、申、上、り、候、に、  
西、方、に、お、申、上、り、候、に、中、隊、に、お、申、上、り、候、に、

歸る後面を打て高き一の付足隊に主として  
大半隊は川向に竹藪の中は彼を為隊十分と手記  
其調の急激な出勢聞て新引直ぐ先一帯大砲隊  
を多隊に調遣前番隊を中をさす大砲隊を以て助て其隊  
は如くの中隊を以て威威隊を大勢聞ては後小銃先  
手として大砲を中隊として大勢無切り高き隊を以て監軍  
推京を以て威威隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
隊及直捷の如き隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
方七の如き隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
則る隊を以て助て其隊を以て助て其隊

以て助て其隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
振ひ振る隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
を助て其隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
崩れを以て助て其隊を以て助て其隊  
振り揚げる隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
を助て其隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
隊を助て其隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
一は時々の争戦を以て助て其隊を以て助て其隊  
江田隊を以て助て其隊を以て助て其隊  
とて助て其隊を以て助て其隊を以て助て其隊

要領を以て野原に陣を敷き、夜半に突如として  
其掛りし付了りて、利地を露出せしむるに  
及んば、戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、  
其の付了りて、野原に陣を敷き、  
散隊に依り、其の勢を以て、  
戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、  
其の付了りて、野原に陣を敷き、  
戦死するも、戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、

四番隊監軍御届

隊員全戦し、其の勢を以て、  
其の付了りて、野原に陣を敷き、  
戦死するも、戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、

中上右

軍書

川村典十郎

一 辰巳月三日、野原に陣を敷き、  
其の勢を以て、其の付了りて、  
野原に陣を敷き、戦死するも、  
戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、  
其の付了りて、野原に陣を敷き、  
戦死するも、戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、  
其の付了りて、野原に陣を敷き、  
戦死するも、戦はれ、其の曉に半時を以て、  
之を以て押さへ、其の勢を以て、

然りお備兵に大砲隊を砲臺に在らせしに大砲の砲  
繼りま行りしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
手強打掛中中に砲隊を打たせしに大砲隊は  
ま行りしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
日對ま行りしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
内は砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
宮に山に内雄助源平去田彦平に浅子扇平に大砲隊は  
儀ま行りしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
其砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
戦時暫時に砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は  
法外大砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

城中砲院とあるに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

存念とあるに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

平山龍助贈家兄等書

一少砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

大砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

人砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

上京に砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

數に砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

陣に砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

大砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は

大砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに砲隊を打たせしに大砲隊は







おぼろし大子筋を新町南丁目より一分隊繰出し、北道  
城を能く攻めし付長市来亦に助く員一分隊ハ  
あせ町に繰出、日ハ隈元清を以て員半隊と去り筋道ニ  
救隊ニ備へ置替へし、橋戦の上、應援隊と交代し、一分隊ハ  
大子筋を以て目本門通子押出、一分隊ハあせ町に繰出、  
俱々あせ町攻めしお及、此戦ハ全滅せし人日歩を以て人捕り、  
城に及大子筋に引揚るは時城を以て助及、伏見の兵隊も用  
向くと多く繰り出、陣の向くおひて、戦死す。

伊具隊川路に進戦状

辰正月三日風晴

一 竹田街道夜戦

但 我兵具隊を任候巡邏に出分し、残一分隊夜あつ時分担撃手  
とて、二奉移の部を繰出、竹田街道を伏見の方面に繰り出、  
柳屋を以て伏見に戦ひ、砲を撃ち、馬羽田を以て砲  
を撃ち、味方難戦と体あつし、付、右に繰り出、  
合言伏見町、只丁位子前の村より、砲を以て、  
進め、賊田敵に伏居、我隊を任候薩兵、部を以て、  
後分切り、搦手當り、敵を以て、本村勇進、討め、  
敵を圍夜し、事、何事、去り、我隊、分、隊、寄、

いふは海軍に城下を砲撃せしむるに田部は依て砲撃の功を矢  
先にお分りし夫も羽の砲撃もお終り閑寂な事ゆゑに激  
しむる故の於て是れ武器を取りし場を引揚せしむ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "先日" and "高崎"）

兒玉平藏贈家書

先日高崎方より上りてお形お付之節早にお届は幸甚に  
お科料も大要動由事お付るに追てお守り及お力もお承知先便  
お返書の上にお答へ申す事お細申すに後でお成り

一月三日海軍砲隊田中清右衛門及高崎陣營にお着下  
りてお馬も急切にお乗せし趣にお海軍砲隊におお  
今も大砲の數も少く大砲の引連も上りてお標お等にお  
お薩長におはるる砲隊におお千にお兵も尤もお若し  
上りてお成りし趣におお海軍砲隊におおしつてお差留  
お決議も万一押す攻守におおしつてお砲隊におおし  
お海軍砲隊におおしつてお砲隊におおしつてお砲隊におおし

方より縁由に成る羽淵に張出に張るは此方諸  
心も信するに事なる信守に縁由に成る内  
一少信を成す縁由に成る信守に成る事なる  
思過なる事なる信守に成る事なる信守に成る  
事なる別我なる事なる信守に成る事なる信守に  
多相河に成る事なる信守に成る事なる信守に  
縁由に成る事なる信守に成る事なる信守に  
相成る事なる信守に成る事なる信守に  
此に上なる事なる信守に成る事なる信守に  
相成る事なる信守に成る事なる信守に  
相成る事なる信守に成る事なる信守に

何方 朝廷下河津法なる事なる信守に成る事なる信守に  
是れなる事なる信守に成る事なる信守に  
無任なる事なる信守に成る事なる信守に  
信守なる事なる信守に成る事なる信守に  
かゝる事なる信守に成る事なる信守に  
回する事なる信守に成る事なる信守に  
少なる事なる信守に成る事なる信守に  
是れなる事なる信守に成る事なる信守に  
さなる事なる信守に成る事なる信守に  
さなる事なる信守に成る事なる信守に





此一ニ  
遊撃手  
隊三日  
初戰二  
出軍十  
三日  
鳥羽ノ  
戦二ヤ  
少間  
二逢ヒ  
テ

也書皆  
御香宮  
是ナラシ  
ニ作

隊長邊見某二番遊撃隊長西某四番隊長川村某臼砲隊長  
成田某一番遊撃隊長小倉某東外城四番隊長中村某足輕  
隊長川路某大砲隊長中原某長兵凡一大隊因州示隊伏見  
要樞ノ所ニ備ヲ立テ當リ黒煙天ヲ掩ヒ砲聲天地ヲ震  
動スルニヨリ則宮ニ馳付シニ御感悦不淺シテ段々御懇命ヲ  
蒙ルヤカテ御参内ニヨリ 朝廷ニ御供イタセシニ公卿諸侯モ  
御参内 禁闕警濤ノ兵勢幾千万ト云數ヲ不知家々ノ旌  
旗天ニ翻リ甲ノ星ヲ輝シ大小砲ヲ押立劔鎗ノ先ハ月前永  
雪ヲアサムキ其勢燦然タリ梟テ兩人伏見在候トシテ夜四時  
馳付シハ最早伏見市中過半兵火ト相成鳥羽街道迄モ都  
テ兵火ニカカリ火焰天ヲツカス伏見御幸宮ヨリ市中ノ

要害ニ備ヘシ薩長ノ兵勢甚盛ニシテ各隊奇計ヲ用ヒテ  
敵ヲ破ルコト拳テ述カタシ會衆新撰歩兵モ勢ヒ甚シク  
熾火ヲ隔テ双方ヨリ射違フル砲声數千迅雷一度落  
カ、ルガコトク魑魅坤軸モ摧ケヤスラント思フ計ナリ上鳥羽街  
道ニ五番隊長野津某六番隊長市來某大砲隊平某外城  
一番隊村田某二番隊長土持某三番隊長児玉某六番隊長鮫  
島某等ノ各隊合戦同時ニ始リテ薩長ノ兵勢ニ敵兵頻  
リニヒラキナヒク 右戦ヒ酣ナルニ 朝敵追討ノ  
勅命相下リ諸隊ニ御布告相成レハ強兵氣盛大也我等奉行  
所コト々四番隊ニ馳付戦争ノ次第尋問セシニ新撰歩兵等  
一大隊繰出ス處ヲ大砲隊三挺ノ大砲押出シフリツキト



ウスヲ以テ微塵ニ打摧ケハ其勢ニ碎易シテ立足モナク  
敗走ス其餘多クハ奇兵ヲ用ヒ敵ヲ破ルナリ此時四番隊手  
負八人戦死一人ナリ其餘戦死手負少々雖有之不遑記今夜七  
時ニナル官軍強勝利疑アラシト決定伏見ヲ立テ  
禁闕ニ馳帰リ委細ニ奏言ス烏羽竹田街道ノ砲声モ手ニ取ヤウ  
ニ相キコヘテ曉ニ徹ス

平田九十郎日記

三日

少用有るは一回在居以年一居を稱を言を達しき時めり世之  
既ニノ匡くはくにはおもむ相の両河に流河會は葉石高松等の多  
出勢ゆるは戸を五多しきもの両少隊鳥羽街に多押へ出勢は伏見  
兼る少隊の多隊をいふは是々き多少隊武多少隊共之を少の多  
數隊に成せり。さるやあると西隊と公強せり今りも羽表に  
東に進軍すや薩多進を略ししは官軍河内府上原に付是釋と  
多し一人多を隊に 朝廷を 河内法を多し加抄兵に推するは  
朝令を何移すを畏り出さるし我隊も出せんとを福を去道  
本右衛門反ニ多移りしと多紙請し時多多あり之既ニノ多あり  
南に多ハ古戦より暫くメニ多あり給光一書を揮て進み給ふ









中本丸を運了り居り扱へ居りて是より高村氏を案持系夫不希勢  
下多羽之方隊余方備へ候所推系山を山口付手  
扱へ承り進へ少枝之方押出候所進へて大鐘前  
少枝方少所位希勢新撰他歩合合は案名押出推系氏  
山口氏之應接之方戦ひ我之方  
多羽之方隊余方備へ候所推系山を山口付手  
扱へ承り進へ少枝之方押出候所進へて大鐘前  
少枝方少所位希勢新撰他歩合合は案名押出推系氏  
山口氏之應接之方戦ひ我之方  
多羽之方隊余方備へ候所推系山を山口付手  
扱へ承り進へ少枝之方押出候所進へて大鐘前  
少枝方少所位希勢新撰他歩合合は案名押出推系氏  
山口氏之應接之方戦ひ我之方

夜入

此等大砲三挺少銃三挺  
出雲守少捕

少銃隊右作敷候

廻り少銃打出候所七ことく一は是れ夫方大砲打止  
少銃方少所位希勢新撰他歩合合は案名押出推系氏  
山口氏之應接之方戦ひ我之方  
多羽之方隊余方備へ候所推系山を山口付手  
扱へ承り進へ少枝之方押出候所進へて大鐘前  
少枝方少所位希勢新撰他歩合合は案名押出推系氏  
山口氏之應接之方戦ひ我之方  
多羽之方隊余方備へ候所推系山を山口付手  
扱へ承り進へ少枝之方押出候所進へて大鐘前  
少枝方少所位希勢新撰他歩合合は案名押出推系氏  
山口氏之應接之方戦ひ我之方

夜の途に至程難戦に申候に申す所不申候に候  
其由田街道より勢多より此處全勢攻破に申候  
加世田郷多城南より安樂寺院より武田通油小路にて  
馬を望み候に武田街道より會はる候に候に候に候に候  
細く難戦に申候に候に候に候に候に候に候に候に候  
何ん程申候程申候に候に候に候に候に候に候に候に候  
迄に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候

加世田士吉峯関助送家書

一三日會津衆名大佐新撰但無歩多と先とて依見御意  
衝道より道下押参りし付若く速く申す計に付各隊用意  
より一長足滞伏し軍城迄は不遠進より申出候に用意  
長足申候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候  
湯城下より係より多臨に救應に候に候に候に候に候に候に候  
より一歩押参りし上り羽城南より申候に候に候に候に候に候  
馬を望み候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候  
事細く申候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候  
以知候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候  
敵軍破る候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候







指宿郡内平者馬子屋時砲争し一居心下多羽  
みん大勢多勢多由海道押来り以付未だ大砲小銃打掛  
暫く砲戦はあらず引下

加世田士有馬次郎兵外三人届書

一前文略之然ハ此等及以事出常流川内府大政直上内府事ハ大坂城  
正等一多一去ハ言今津桑名大垣藩新撰御兵歩兵等も先  
依見多羽多下押寄以中付委我連要也難計各隊用意  
難事極洋伏山軍機後兵は法を以て出兵之用言一居心  
當時多勢多馬軍後兵出多我二守備隊ハ多羽御意出  
之標取軍出極押出上多羽城南難宮ハ大坂居心七の時分  
兵一万針正等一多一押寄ハ付防備下多勢多及御接以共

終ニ事切多勢多敵喇以之我圖多砲争初我之隊ハ横合打掛  
敵兵引色多敵追下多羽一追撃多勢多夜入多敵合  
能く多勢多人多を小指一居心敵分隊多一其後砲争終夜  
休ム時多ハ此時指宿静養及手多之履ハ

此多羽合戦初多勢多依見ハ合戦初り多不之砲争  
夥多為方所多ハ大抵多其地ハ動搖多

市来士高崎半共請

依見奉行不日案内多程龍城居ハ大隊討ハ不當二百多方  
數多軍勢多不并寺院市中ハ繰也以付多首砲落  
湖邊長林洋多去ハ左之屬彼陣言ハ多敵は言ハ大坂  
多勢多依見ハ此多ハ我ハ御接多敵ハ彼多一ハ此多

幕府様 王命上京と仕奉付我々幕命と蒙り之辨  
とて是迄出掛り幕府より言上京と蒙り幕府に御座  
之儀成程一様様 王命上京と仕奉付我々幕命と蒙り  
り此迄言へ一様 御座り 王命上京と仕奉付我々幕命と蒙り

人数御座ると御座り形勢御座り下依巡邏とて言上京付一先  
参考上京御座り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
御命上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
新五郎御座り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り

寸地七ヶ所御座り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
中京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
有人既に破り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
王命上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り

長今や言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
押来る言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り  
言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り言上京と蒙り



去砲院方概事討討之戦、又指定五人打使せしは戦功多夜  
我ハ止まらん此等去砲院ノ人ノ負十分ノ福利ノ故也故  
半里程引取陣取病ハ由中ノ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

番兵一番隊申状

又三我水三

一 尚少月 三石 依水 多羽 街道 不様 之 形勢 之 付

當隊 任候 与 人 竹田 街 之 道 差 出 言 以 奉 回 日

五 之 比 依 水 至 馬 羽 之 上 高 入 砲 取 了 其 他 之 故

及 戦 争 之 趣 任 候 馳 陣 了 後 知 之 事 以 付 了 未

整 列 之 事 當 日 取 引 之 所 中 之 何 事 出 立 之 事 任 候 了

其 間 亦 如 上 所 盡 内 亦 望 以 秘 之 付 了 事 太 之 所 候

津 草 院 様 出 一 所 盡 内 亦 望 了 於 夜 加 茂 川 筋 之

室 所 通 邊 所 為 補 止 傍 巡 邊 之 事 以 付 了 事 中 之

一 羽 之 旨 未 明 其 者 中 之 舍 賊 兵 集 了 事 一 所 以 越 了 付











一 子屋山人

二月六日

一 陽春格色致事

一 子屋山人

方々京兆致事... 承和仕在調方仕迄方通...

己卯月十五日

山城守書院

小信長

少将雄守印

其洲二番酒海外

書状

先三旨... 依兄多羽... 押電... 依兄多羽... 押電... 依兄多羽... 押電...



同日申刻会泊花城之打控还云以中云物之云云

右云今度野郎進付会戦之次身云布下云云上

山城之云云

底

少落長

主持雄也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '山城' and '主持'.

Small handwritten marks or characters at the top of the page.

Small handwritten marks or characters in the lower middle of the page.

